

晴れ舞台で威風堂々

馬と乗り手の一体感やリズム、足並みの美しさを競う「第18回琉球競馬シマハラシー」(主催:公益財団法人沖縄こどもの国/共催:沖縄県馬術連盟、琉球新報社/後援:沖縄県博物館協会、全国乗馬倶楽部振興協会、日本動物園水族館協会)が1月22日、沖縄市の沖縄こどもの国で開催された。

県内各地から5団体・17頭が参加し、優雅な姿を披露した。シマハラシーは2013年に70年ぶりに復活し、その後新型コロナウイルス感染症や豚熱の影響で3年ぶりの開催となった。大会を待ちわびた多くの人々がレースを見守り、伝統衣装などで着飾った馬たちの堂々とした晴れ姿に歓声を上げた。

琉球競馬 シマハラシーとは?

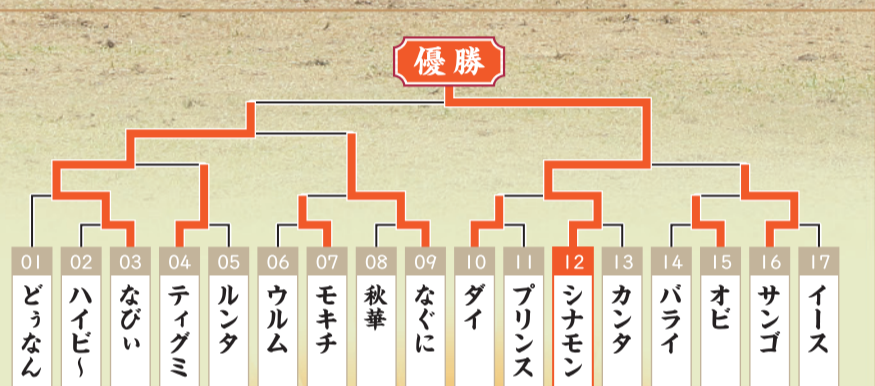
琉球王朝時代から戦前までの約300年間、沖縄には「シマハラシー」(地方によって「シマズプ」、「シマズリイ」など)と呼ばれる琉球競馬が行われていた。かつて沖縄には離島も含めて200以上もあった馬場で開催され、大変な賑わいを見せていた。シマハラシーは足並みの美しさや人馬の一体感などを競う、世界でも類を見ないスタイルで、沖縄の在来馬が活躍していた。沖縄の在来馬は小柄だが力持ちで気性もやさしく人間の生活に欠かせない存在だった。しかし戦時中は軍馬として、戦後は社会の大きな変化で数が少なくなった。そのため、シマハラシーも沖縄本島では1943年に那覇市首里の平良真地で行われたのを最後に途絶えた。

沖縄の在来馬の保存と伝統的なシマハラシーの復活のため、沖縄こどもの国をはじめ多くの人の連携により、2013年、じつに70年ぶりに復活した。



出場馬と参加団体一覧

- 牝馬(メス馬)
- セン馬(去勢したオス馬)
- 沖繩こどもの国(沖繩市)
 - なびい ● どうなん ● なぐに
- うみかぜホースパーク(南城市)
 - カンタ ● バライ ● ルンタ
 - 秋華 ● モネチ ● サング
- 美らヤシパークオキナワ・東南植物楽園(沖繩市)
 - ティグミ
- ホースガーデンちゅらん(うるま市)
 - シナモン ● プリンズ
- 久米島馬牧場(久米島町)
 - ウルム ● ハイビ〜 ● オビ ● イース ● ダイ



騎手のデスマーフィー・デサーマーさん
ホーストレーナーとして馬に関わってきた。シナモンが所属するホースガーデンちゅらんは初出場、優勝できてうれし。機会があればまた出場したい。



子どもたちも審査員

観客も紅白の旗を上げて審査に参加

観客魅了する美しさ

1. スピード感

駆け足は減点の対象に

パカラン、パカラン
パカラン、パカラン

2. リズム

パッカパッカパッカパッカ



3. まっすぐ進んでいるか

姿勢や方向などを見る



4. 馬と乗り手のビジュアル

美しい飾りも得点に

在来馬に脈打つ琉球史



佐藤 寛之さん
沖縄生物倶楽部・理学博士

世界数多ある競馬の中でも「足の運びや所作」を競うというのはこの競馬ぐらい、というユニークな「琉球競馬シマハラシー」が先日開催された。王府時代から戦前までハレの日の行事として連綿と続けられ、競馬の日は馬場に屋台がいくつも並び大変盛況を博し長らく民衆の大きな娯楽として認識されていた。かつて琉球国と呼ばれたこの地では馬が主要な輸出品であったため、増産が盛んに奨励された。各地に残る「牧

や「馬場」と名の付く地名はその当時の生産拠点や競馬場などの名残である。そうした馬が身近にいたことを背景に琉球の競馬は洗練されていったのだ。元来、競馬は「競い、優秀をつける」ことで優れた個体に子孫を産ませ、よりよい家畜(馬)を求めたいという人間の選抜圧が根底に存在している。多くの競馬が速さや牽引力などを競うのはそこに住む人が相棒である家畜(馬)に求めた能力と思うと合点がいくと同時に、足の運びや所作を求めた琉球の特殊性がより鮮明となる。こうした能力が求められた詳細は諸説あるが、琉球の在来馬である宮古馬、与那国馬が、そういった先人たちの数限りない選択の結果であり、小型なことも、粗食に耐えることも、蹄が丈夫なことも、性格が温和なことも、その全てになんらかの意味を持ち、この地における人との悠久の歴史を反映していると思うと在来馬やシマハラシーには単なる娯楽以上の意味があることが見えてくるだろう。こうした在来馬とシマハラシーであるが、その存続は順風満帆ではない。馬は人間のできない仕事を受け持つ役家畜だがその役割をトラクターや機械に渡ってしまった現代、個々人が馬を所有する、というのは難しくなっている。在来馬の新たな活用法、馬主の拡充は喫緊の課題である。シマハラシーをきっかけに琉球史の生き証人のような在来馬とそこでの馬文化を次世代に継承していくことに知恵を出し合ってみていいのではないだろうか。

竹馬で「側対歩」体験

シマハラシーで競われる足並みの美しさのポイントの一つが「側対歩」。片側の前後の足が同時に出る走り方のことで、今回の大会では側対歩を体感してもらうために「竹馬シマハラシー(竹馬競走)」も行われた。



YouTubeで動画配信

琉球競馬シマハラシーは琉球新報YouTubeで見ることができます



日本中央競馬会 特別振興資金助成事業

企画・制作 琉球新報社広告事業局